

## 平成 18 年度 第 1 回釜石市立図書館協議会の開催結果

- 1 . 開催日時 平成 18 年 5 月 26 日(金) 午前 10 時から午前 11 時 30 分
- 2 . 場 所 釜石市立図書館視聴覚室
- 3 . 出席委員 8 名 伊瀬幸城委員、阿部修吾委員、松田淳子委員、三浦信子委員  
佐々木正忠委員、木谷 哲委員、佐藤順子委員、松村弘子委員
- 4 . 欠席委員 1 名 千葉佐和子委員
- 5 . 事務局出席者 4 名 教育長 河東眞澄、図書館長 中村公一、  
館長補佐 榊澤貴代子、図書館係長 岩間千枝子  
主査 阿部禎子

### 6 . 経過と結果

- (1) 開会のことば 中村館長が開会を宣言
- (2) 釜石市立図書館協議会委員の委嘱状交付  
釜石市立甲子小学校校長 木谷 哲氏に教育長から委嘱状が交付された。
- (3) 木谷委員のあいさつ(内容省略)
- (4) 教育長あいさつ(内容省略)
- (5) 職員紹介
- (6) 議 題 伊瀬幸城委員長の進行で議事を進めた。  
平成 18 年度釜石市立図書館運営方針及び事業計画について  
(会議資料に基づき、中村館長及び榊澤補佐が説明し、承認された。)  
平成 17 年度釜石市立図書館蔵書数の報告について  
(会議資料に基づき、岩間図書館係長が説明し、承認された。)  
平成 18 年度釜石市立図書館資料収集方針について  
(会議資料に基づき、阿部主査が説明し、承認された。)  
その他

### (主な質疑内容)

議題 平成 18 年度釜石市立図書館運営方針と事業計画について

(木谷委員) : 移動図書館車に来て頂いているが、利用する児童が多く休み時間内に消化できない。多くの児童が借りに来た時の対応について考えてほしい。

(回 答) : 即答できないが、検討する。

甲子小学校の P T A の方から移動図書館車が大変そうなので何かお手伝いできないかとの申し入れがあった。今後学校と協議していきたい。鶴住居小学校も利用が多いので来年度には回数を増やすなどの方法で考えていきたい。

(伊瀬委員) : ボランティアの募集範囲の年齢を下げることです。

(回 答) : ボランティアは大人が多い。高校生もいるが受験とかで釜石を離れてしまうので、中学生あたりから年齢を下げたい。無理のない方法で図書館の仕事を体験できないか考えている。そのことによって、中学生、高校生の利用を伸ばしたい。

(阿部委員) : 「郷土史を楽しむ会」は新しい事業ですか。大賛成です。回数とか講師

は決まっていないのか。

(回 答)：最近あまりやっていたいかなかった。回数は 6 回程度。講師には郷土史家の昆勇郎氏を考えている。今、話を詰めている。この会のねらいは市民の方に楽しんでもらうのはもちろんのこと、郷土史に関する質問が図書館職員に寄せられることが多いので、レファレンスのこともあり、職員の知識を高めていきたい。市民も職員も勉強する。そういう位置づけで実施したい。また、郷土資料館と連携した事業ができないか相談することになっている。

(伊瀬委員)：郷土資料館にも集まる場所があるのか

(回 答)：あります。あまり大きくない。場所はここでやるとかいろいろな方法があると思う。東京大学の研究チームが今年釜石に入って「希望学」の調査をやることになっており、図書館にも今月 30 日に資料調査のためみえることになっている。先月は韓国の国会議員の経験のある女性で鉄の研究家が鉄関係の施設を訪問し、図書館にある鉄の資料をみていった。最近、郷土資料の要望が高まってきている。「郷土史を楽しむ会」で我々も勉強しながら、どういう資料を集めたらよいかどういう資料が図書館にあるか把握していきたい。

「希望学」というのは、高校生が就職して 2,3 年で辞めることが多いことから、子供と親を含めて将来の仕事についてのあり方を勉強する。高校時代に希望を持っていれば挫折しても回復が早いとか、いろいろな良い面がみられる。東京大学の研究チームは 2 年間に渡って調査に入る。市民にアンケートをとって調査する。委員の皆様にもアンケート調査に行くかもしれない。

(教育長)：東京大学の玄田先生とおっしゃる方が商業と工業の生徒を対象に 2 日間講演会を行なった。保護者はあまり来なかった。9 月末に 10 日くらい滞在していく。この間に玄田助教授にお話を聞きたいとか、講演を聴きたいとかあれば活用できる。釜石が小説の舞台となっているのかどれくらいあるのか、どんな風なものがあるのかも聞いてくる。

(中村館長)：すでに依頼が来ている。職員が対応している。いろいろな意見で刺激になると期待している。ミニ講演会を開催できないか考えている。

今年は、図書館を図書事業に限らず、いろいろな行事に使用してもらいたい。そのことによって図書館にも絶対プラスになると考えている。

(松田委員)：図書館がずいぶん立派になったと活動をほめられたが、その要因として、学校と図書館の連携がうまく進んできたのが大きいと思う。学校図書館職員と釜石市立図書館職員研修会は 11 月末となっているが、一年間の様子を把握していくためにはこの時期で良いのかと引かかる。前半と後半に分けて行なうことはできないか。

(回 答)：学校が落ち着かないと学校の先生同士方針が決まらないというお話を承っている。それができるのは夏休み前ということで年度始めは無理ではないかと思う。夏休み後落ち着いてお話を聞けるのは、秋頃かなと思う。

(三浦委員)：幼稚園の計画もたくさん立てていただいております。保育会のほうにも広めていきたい。

(阿部委員)：民間団体との連携はどうですか。たとえば「民話を楽しむ会」ですが、民話の会との連携とか。

(回 答)：民話の会にお願いしている。会長に相談し、須知さんに語っていただいている。今年もお願いしたい。自分も勉強になるのでやらせていただきたいと

いうお話をいただいている。

(佐藤委員)：私自身郷土史が分からないながらも興味がある。昔を知っている方が少なくなってきた。資料があってもそのことさえ分からない人が多いと思う。もったいないと思う。詳しく知っている人がいたら資料展示したり、お話を聞けたりする機会があれば良いと思う。また、事業が沢山あって職員は大変だが新しい事業をやってみると利用者の要望がみえてくる。こういうところが良いところかなあと感じる。

(松村委員)：朗読奉仕で図書館にはお世話になっている。広報を読んでも地名の読みが分からない。市の広報係に問い合わせても分からない。朗読するほうも困る。「郷土史を楽しむ会」には参加して勉強したい。楽しみにしている。

(中村館長)：講座をするときは、講座に関係する蔵書を展示したいと考えている。

(佐々木委員)：資料室の本は貴重な本なので持ち出しできない。限られた時間の中で探すのは至難の業でどこにあるのか探すときのお手伝いができるような形のことでは大切なことだと感じる。中学校が統合になったことで、小佐野中学校の生徒に限らず、二中や一中の生徒も自転車に乗って来るのではないかと期待している。図書館とは別に、普段の自転車安全面のことから、駐輪場がどうか、別な観点からも感じた。

議題 平成 17 年度釜石市立図書館蔵書数の報告について

(伊瀬委員)：利用冊数は増えているんですね。

(回 答)：増えています。市の人口一人当たりの利用冊数は 0.5 冊伸びている。利用冊数を昨年より 1 年当たり 0.5 冊ずつ伸ばしたい。現時点での県平均に近く可能な数字と思われる。とりあえず 3 冊台に持っていきたい。また利用者カードを持っている方の割合が低い。釜石市の人口の 1 割程度である。市職員にも呼びかけている。反応が出てきている。

(伊瀬委員)：市民文庫は。

(回 答)：今年 5 月に釜石東ローターリークラブから寄贈していただき 1020 冊が 1048 冊になった。

(伊瀬委員)：釜石ロータークラブでは、35 周年を記念して 10 数年前に 100 万円寄付している。その当時金利が 7~8% だったのでその金利で図書を購入することとしていた。現在金利が 0 となっているので、ほしい本があれば使用して良いと思う。館長が代わっているので、忘れていると思うが。

(回 答)：承知していなかったので、確認する。

議題 平成 18 年度釜石市立図書館資料収集について

(中村館長)：毎月 1 回全職員による選定会議を月末に開き、方針に基づき推薦図書の理由を明確にし、館内全体で協議している。寄贈本の選択の基準は、学校にリクエストして学校の希望を配慮し優先している。教育委員会の基本的な方針に合致するテーマの災害について、地震や津波に関する本、食育に関する本を入れるようにしている。

(松田委員)：私たちは、図書館に関して期待とか、要望を並べるが、図書館の職員は図書館の希望とか悩まないのか。図書購入の予算を上げてほしいとかそういったところはないのか。

(回 答)：難しい質問です。要望があれば教育長には申しあげている。長年懸案になっていることは、蔵書予算はもちろんのこと、冷房設備が無いことから夏場

が問題になる。飲料水を隠して飲んでいる利用者が居る。暑いので、「飲むな」というのも酷かと思う。暖房はあるが、年数が経っているので近いうちに支障が出る場合がある。委員の皆様には図書館事業には積極的に参加していただきたい。できるだけ図書館に親しんでいただくことが一番の願いです。

(佐藤委員)：最近のニュースで、全国的に大事な本を切ったりすると報道されたが、釜石市立図書館ではそのようなことはないか。

(回 答)：料理本が切られた。配架した翌日に切られていた。人気のある雑誌はカウンターの中に置き出し出のあった時にお見せすることにした。最新刊は貸し出ししないことになっているが、いつの間にかなくなっていることがある。いつの間にか戻ってきている。館内閲覧し、そのまま持って行かれると分からない。

(伊瀬委員)：コピーする方もいるのか。職員がするのか。

(回 答)：居ます。著作権の関係もあり、必ず職員がすることになっている。数量は非常に多い。コピー料金は1枚20円お預かりしている。

(松田委員)：本を返さない人の扱いはどうしているのか。

(回 答)：1ヶ月を過ぎた人には電話をかけます。次には封書で督促します。昨年度には、弁償の規定を整備しました。紛失した場合は購入時の原価を弁償していただくことになる。システムの導入で正確に把握できるようになったことから厳しくしたいと考えている。

(佐々木委員)：学校の生徒はカードを全員作っているのか。巡回すればカードが増えると思うのだが。双葉小学校の場合はどうなのか。

(回 答)：全員作ってもらうことを考えたが、個人情報の関係から、児童、生徒の場合は保護者の承諾が必要であるため、申し込みのあった場合に発行している。移動図書館車はその場では発行できない。申込書は学校に渡している。双葉小学校は個人的に作っている。昨年11月に各学校にアンケートをとり、団体貸し出しや移動図書館利用の希望をとっている。今年増やした学校はそういった希望を取り入れたものである。今年もまた要望があれば取り入れていきたい。移動図書館についてもPRしている。

(佐々木委員)：カードを作る人がたくさん居ればいいなと思った。PRしたいと思う。見学に来たときにカードを作れないのか。

(回 答)：学校の考えを優先している。PRは充分にしている。

議題 その他

(伊瀬委員)：たくさんの事業をしていただいているが、ほかの図書館の見学会を行なったらよいのではないかと。昔は行なっていたが、5、6年まえから行なわれなくなった。行事が多いから大変だと思うが計画していただけないか。(提案)

(回 答)：考え方には賛成する。バスの手配等があるので検討させてほしい。

(5) 閉会のことば

中村館長が閉会を宣言

以上報告します。